

9 中津原の巨樹と寺社めぐり (麻生田駅周辺探訪)

① 其原道場

享保 6 年行順寺掛所として道場を創設。正安三年銘の入った 1 石五輪塔が実応和尚の墓石の前にある

② 原神社

其原の先人(最初の住民)は座野(字上座野)に住んでいたが、長い年月を経て川の西側・現在の元垣内に移転して行き、神明社もそこに鎮座地として移された。村の人家が再び西側の上段の野原に移動し現在の所になる。そのため神社が人家より低い所になり、人家の不浄の水が神様の錢座地をけがす事になるということで、人家の上の最上の鎮座地を選び、明治 40 年 4 月 29 日に現在の天王の森に遷座することになった。

③ 大榿 (おおがや)

平成 15 年 3 月、北勢町指定文化財。平安末期に植えられ、樹齢千年という。幹周り 5.5m、樹高 10m、樹幹は直径 12~3m。

④ 寝榿 (ねがや)

昭和 37 年 11 月、日本の名木指定。樹齢 800 年。幹周り 1m 前後の榿が数本生育。この寝榿の森には関が原の合戦に破れた落ち武者が隠れ住んだという。

⑤ 中原神社

仲つ原の大宮さんと慕われている西紀 810 年に中原神社の御本殿の屋根修理の記録があるから、それ以前に人々が住んでいたことになる。正月第 1 日曜日に、山の神の神事「粥だめし」が行われる。

⑥ 行順寺

天長 4 年空海が開基したと伝えられているが、兵火により消失し、一道場となる。文安 5 年、中興の祖、刑部坊空賢のとき、浄土真宗に改宗し、再興。翌宝徳元年蓮如聖人が 4 日間逗留したと伝わる。

⑦ 報恩水道

行順寺に江戸時代後期の報恩水道の名で、今も語り継がれているお話。絵本になっている。

「行順寺へ駆け込みみ保護を受けた男が、村人の困っている話を聞き、3 年かけて「まんぼ」(延べ百聞余り、たてよこ 80cm に及ぶ地下水道)を掘って、水が通ることがわかると、誰に告げることなく、その日から姿を消した。」

